

所在地：宮崎県日南市

選定年月日：平成25年10月17日

面積：460.3ha

選定基準：二(一)(一)(三)

(1) 概要

宮崎県日南市西部の山間地に位置する酒谷地区は、年間降水量が3,000mmを超える多雨地帯であり、飢肥杉(おびすぎ)の豊かな林相が広く展開しています。

集落の起源は未詳ですが、近世には郷土と呼ばれる足軽組軍団が畑地とともに山中に分散して居住していました。近代になると、人口の急激な増加に伴う食糧増産の必要性から耕地整理組合が組織され、酒谷の坂元集落では昭和3年(1928)から同8年にかけて、従来の茅場(かやば)・秣場(まぐさば)に棚田が開かれました。

棚田は、平均勾配1/7の斜面地に、高さ2~3mの石積みで区画された5畝ないし3畝の長方形の水田が27段にわたり整然と展開します。棚田への導水は約1.6km離れた2本の谷筋から長大な水路を引いて行われており、棚田内では階段状に設えられた石積みの用排水路が耕地を貫いています。

集落上部の国有林では早い時期から、集落近傍の民有林は昭和40年代に、草地・畑地・水田から転用され飢肥杉の林地とされ、良質の船材として油津等に移出されました。

酒谷の坂元棚田及び農山村景観は、昭和初期の耕地整理事業により完成した石積みや用排水路を伴う長方形区画の棚田及び良質の船材として栽培された飢肥杉林等で営まれる生業と、畑地及び果樹林等を伴う居住地における生活とによって形成された農山村景観です。



坂元棚田と飢肥杉林



直線的な石積み水路

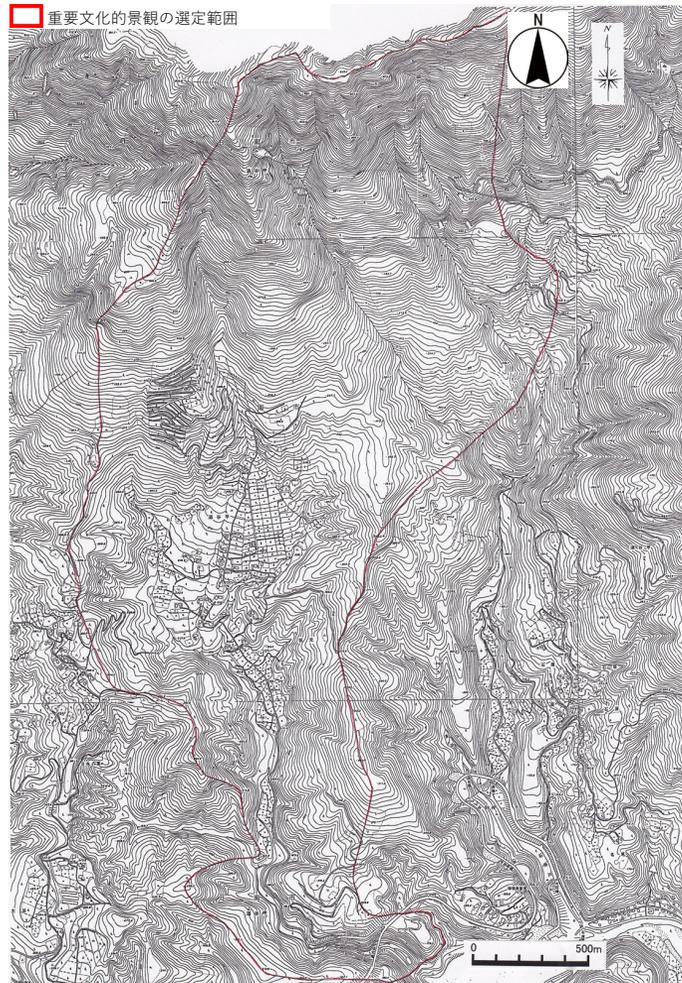


棚田オーナーによるハザ架け



飢肥杉林

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：23件

（３）選定による効果

坂元地区では住民の高齢化・過疎化により、棚田での営農や集落の維持が今後の課題となっていますが、棚田オーナー制度の導入や県内大学のフィールド調査への協力等を長く続けており、また、近くの「道の駅酒谷」を拠点に多くの人々の行き来があることで、地区外交流が盛んに行われています。文化的景観の制度を利用し、公民館敷地の崩落した石垣の修理を行うことにより、地元住民ばかりではなく、地区外から来られる方々にとっても安全性と利便性が向上し、多くの方が坂元地区の活動に参加しやすい環境の創出に寄与しています。



近隣の大学による毎年恒例の学外研修



多くの方が営農の風景を見学に来られます

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 酒谷の坂元棚田及び農山村景観 文化的景観保存計画（平成25年3月、日南市）※調査報告書を含む
- ホームページ

<https://www.city.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/shogaigaku/shuka/2/782.html>

(5) 活用事例

事例45-01 ①

来訪者と地域住民の交流の拠点となる公民館の石垣の災害復旧

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

選定範囲内にある坂元公民館の敷地の石垣が、令和3年8月の大雨によって一部崩落したため、復旧工事を行いました。

小人数の集落で高齢化も進んでいることから、地区だけで復旧工事を行うのは金銭的にも大変困難な状況でしたが、文化庁の補助事業を活用して復旧工事を実施できたことで、以前よりもさらに安定した状態で石垣を復旧することができました。

復旧工事は、専門家の指導のもと、地区住民と行政が工法などについて協議の上、市から地区へ補助金を交付して令和3年度に実施しました。

住民の声

石垣を復旧できたことで、棚田を見学に来られる方や棚田での活動に参加される方も安全に公民館のトイレを使えるようになりました。集落の景観も良い状態で維持することができましたので、これからも多くの方にこの棚田と集落の佇まいを楽しんでもらえたらと思います。



大雨による石垣の崩落状況



復旧後の様子



階段の上の左手に便所がある



敷地下から便所までの安全性と利便性が向上

団体等情報： みやざきの棚田「ひなたの棚田遺産」（宮崎県） 坂元棚田保存会
https://www.miyazakitanada.com/certified_district/01-sakamoto

① 地域内での
魅力の共有② 活性化の
共有③ 地域外への
広報④ 魅力を引き
出す開発⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例45-01 ②

交流と小さな経済で、楽しみながら未来に文化的景観をつなぐための取り組み

●住民や団体等による取り組み

地区住民から構成される坂元棚田保存会では、平成18年の活動開始より、坂元棚田の歴史的価値を損なうことなく棚田での営農と景観を守りながら、棚田オーナー制度による都市農村交流や、農道・水路・石垣などの定期的な管理による棚田・集落・山林景観の保全活動、地域資源の活用などに取り組んできました。

棚田オーナーが参加する田植えや、稲刈り作業などには子どもたちも参加し、次の世代への景観保全に対する意識の醸成にもつながっています。また、宮崎大学と連携し、米の品質向上に関する調査への協力を続けることによって、地域と大学生との交流にも寄与しています。

選定範囲内の「道の駅酒谷」とも連携し、棚田米、草団子や大根・人参の漬物など、地元農産物の販売などを行っています。例えば、個人で道の駅に出荷して得た収入で、孫に何かを買ってやることもできるなど、生きがいにつながっています。

地域内外の人々との交流や、自分で回せる経済活動を喜び・励みにかえて文化的景観を未来につないでいます。

✓ 美しい宮崎づくり大賞受賞

✓ 石井進記念棚田学会賞



せせらぎの里酒谷まつりの前夜祭（文化的景観
答申記念）



棚田オーナーによる田植え

坂元棚田保存会の声

この地区は高齢者が多いですが、何事にもまとまりがあるのが自慢です。棚田オーナーや外部から来られる方々との交流を楽しみながら、長続きのする活動をやっていきたいです。安全な農作業と一つひとつの収穫を喜び合える活動をやっていきたいと思っています。

団体等情報：みやざきの棚田「ひなたの棚田遺産」（宮崎県） 坂元棚田保存会
https://www.miyazakitana.com/certified_district/01-sakamoto

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 財源と運用
確保

⑥ 人づくり
・